

# 鈴鹿市 循環型社会形成推進地域計画（2期）

鈴鹿市

平成22年12月22日

変更 平成26年10月15日

# 鈴鹿市 循環型社会形成推進地域計画（２期）

平成２２年１２月２２日  
変更 平成２６年１０月１５日

## 1 地域の循環型社会形成を推進するための基本的な事項

### (1) 対象地域

市町村名 鈴鹿市

面積 194.67 km<sup>2</sup>

人口 202,999人（平成２２年３月３１日現在）

### (2) 計画期間

全体計画として、平成１７年４月１日から平成２８年３月３１日までの１１年間とする。

平成１７年４月１日から平成２３年３月３１日に第１期計画を策定し、本計画では、第２期として平成２３年４月１日から平成２８年３月３１日を計画期間とする。

なお、目標の達成状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要な場合には計画を見直す。

### (3) 基本的な方向

本市の廃棄物対策行政においては、ごみの発生抑制を基本理念とし不適切処理の防止と環境への負荷の低減に配慮しつつ、排出されたごみに対してできる限りの資源化を進めている。

しかしながら、近年問題となっている「大量生産・大量消費・大量廃棄」の繰り返しにより、従来の処理方法では対処しきれない状況が生まれてきており、極力資源として再利用する処理へと、経済社会システムそのものが見直されている。

以上のことから本市においても循環型社会の形成に向けた基盤づくりを進展させ、市民・事業者・行政が一体となった廃棄物の適正処理を推進するなど、ごみの排出抑制とリサイクルを主とした資源循環型社会の構築を目指すものとする。

## 2 循環型社会形成推進のための現状と目標

### (1) 一般廃棄物の処理の現状

平成20年度の一般廃棄物の排出、処理状況は図1のとおりである。

総排出量は、集団回収量も含め、74,525トンであり、再生利用される「総資源化量」は19,154トン、リサイクル率(= (直接資源化量+中間処理後の再生利用量+集団回収量) / (ごみの総処理量+集団回収量))は25.7%である。

中間処理による減量化量は48,722トンであり、集団回収量を除いた排出量の概ね2/3が減量化されている。また、集団回収量を除いた排出量の約9.4%に当たる6,649トンが埋め立てられている。

なお、中間処理量のうち、焼却量は53,531トンである。また、焼却施設では、発電を行っている。

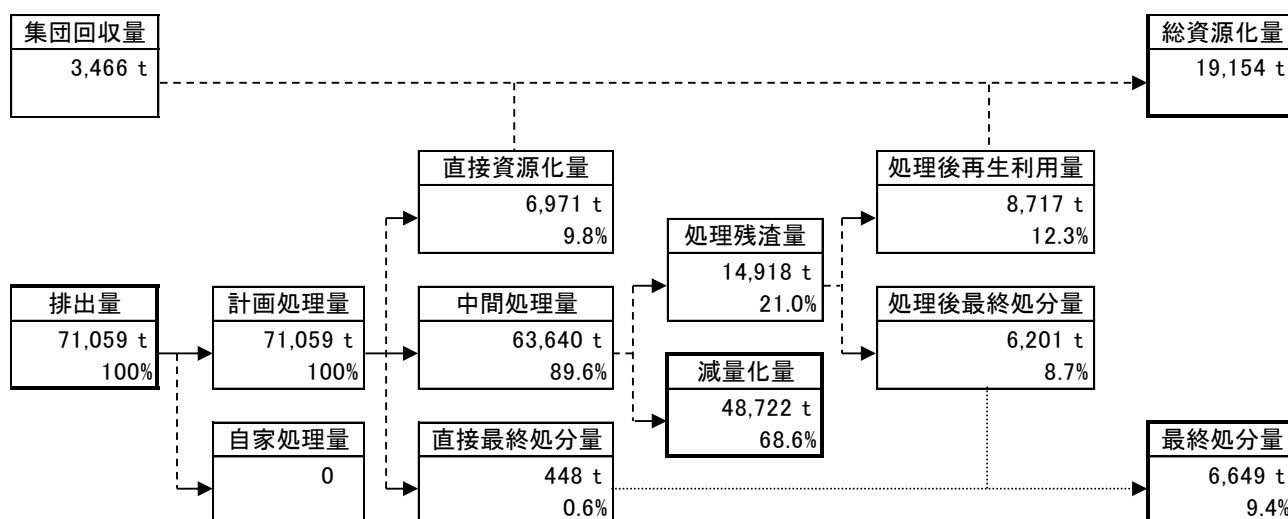


図1 一般廃棄物の処理フロー

(2) 一般廃棄物等の処理の目標

本計画の計画期間中においては、廃棄物の減量化を含め循環型社会の実現を目指し、表1のとおり目標量について定め、それぞれの施策に取り組んでいくものとする。参考として、別添1に現状と目標のトレンドグラフを添付する。

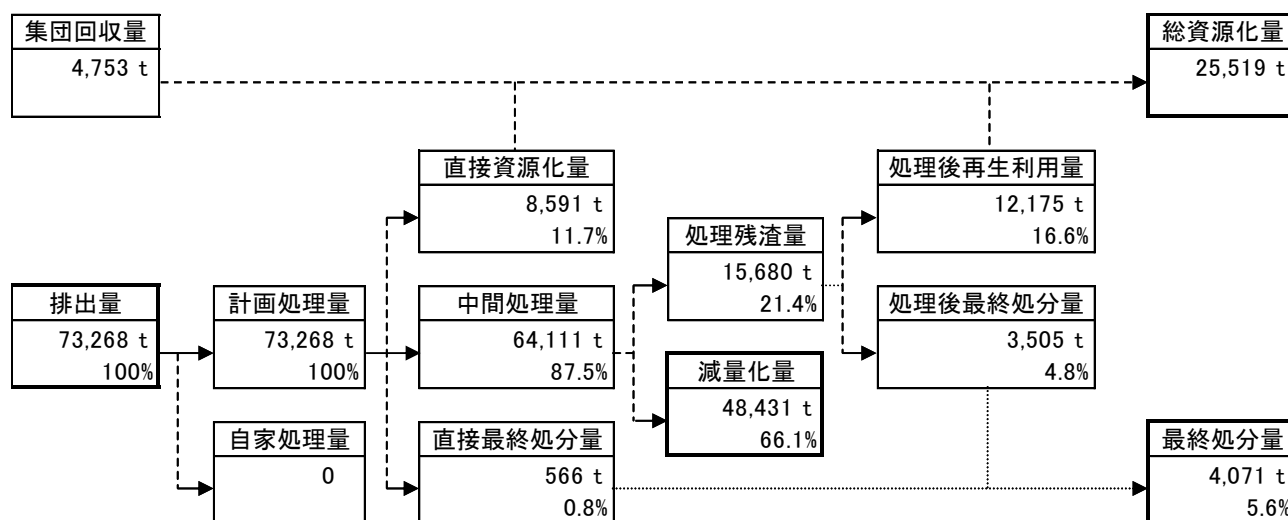


図2 目標達成時の一般廃棄物の処理状況フロー

表1 減量化、再生利用に関する現状と目標

指 標・単 位		現 状(割合※1) (平成20年度)	目 標(割合※1) (平成28年度)
排 出 量	事業系 総排出量	17,836 トン	15,975 トン (-10.4%)
	1事業所当たりの排出量 ※2	9.13 トン/事業所	8.81 トン/事業所 (-3.5%)
	家庭系 総排出量	53,223 トン	57,293 トン (7.6%)
	1人当たりの排出量 ※3	196.33 kg/人	182.43 kg/人 (-7.1%)
合 計	事業系家庭系排出量合計	71,059 トン	73,268 トン (3.1%)
再 生 利 用 量	集団回収量	3,466 トン	4,753 トン
	直接資源化量	6,971 トン (9.8%)	8,591 トン (11.7%)
	処理後再生利用量	8,717 トン (12.3%)	12,175 トン (16.6%)
熱 回 収 量	年間の発電電力量	8,066 MWh	7,526 MWh
減 量 化 量	中間処理による減量化量	48,722 トン (68.6%)	48,431 トン (66.1%)
最 終 処 分 量	埋立最終処分量	6,649 トン (9.4%)	4,071 トン (5.6%)

※1 排出量は現状に対する割合、その他は排出量に対する割合

※2 (1事業所当たりの排出量) = {(事業系ごみの総排出量) - (事業系ごみの総排出量)} / (事業所数)

※3 (1人当たりの排出量) = {(家庭系ごみの総排出量) - (家庭系ごみの総排出量)} / (人口)

《指標の定義》

排 出 量：事業系ごみ、生活系ごみを問わず、出されたごみの量(集団回収されたごみを除く)〔単位：トン〕

再 生 利 用 量：集団回収量、直接資源化量、中間処理後の再生利用量の和〔単位：トン〕

熱 回 収 量：熱回収施設において発電された年間の発電電力量〔単位：MWh〕

減 量 化 量：中間処理量と処理後の残さ量の差〔単位：トン〕

最 終 処 分 量：埋立処分された量〔単位：トン〕

### 3 施策の内容

#### (1) 発生抑制、再使用の推進

##### ア 有料化

事業系ごみの有料化については、従前より実施している。また、家庭ごみについては、粗大ごみのみ行っているが、今後、先行実施自治体の状況及び近隣市町村の動向を見ながら、実施について検討していく。

##### イ 家庭系ごみの減量化

家庭ごみ・・・4Rの推進及び環境教育の実施により、ごみそのものの減量を目指す。また以下の事業を実施する。

- ・リフューズ, リデュース  
ごみ分別等啓発（啓発冊子等）  
廃棄物減量等推進員設置  
レジ袋削減（有料化）・マイバッグ推進運動
- ・リユース  
リサイクルフェア  
リサイクルくるくる市場（電子掲示板によるリサイクル情報の交換）  
おもちゃ病院「トイなおす」支援事業（おもちゃの修理）
- ・リサイクル  
資源ごみ分別収集  
資源ごみ回収奨励金事業  
生ごみ処理容器購入費助成金事業  
あき缶ポスト（あき缶回収事業）
- ・環境教育  
出張ごみ博士（市内の小学校）  
鈴鹿市のごみ減量を考えるポスターコンクール

##### ウ 事業系ごみの減量化

事業系ごみは自己処理が原則であることを周知し、事業者の自主的なごみ減量や環境負荷の少ない事業活動を支援することにより、事業系ごみの減量を目指す。また、以下の事業を行う。

- ・ごみ減量推進店等制度（ごみの発生抑制及び減量に取り組んでいる小売店、事業所及び市民グループの認定）

## (2) 処理体制

### ア 家庭系ごみの処理体制の現状と今後

分別区分及び処理方法については、別添表 2 のとおりである。平成 22 年度から供用開始した容器包装リサイクル推進施設に合わせた分別区分及び処理方法で実施している。

また、現在の最終処分場については、平成 26 年度に埋立完了の見込みとなっているため、新たに最終処分場を整備する。

### イ 事業系ごみの処理体制の現状と今後

家庭系ごみの分別区分に準じ、処分を行う。

また、事業者の自主的なごみ減量や環境負荷の少ない事業活動を積極的に支援する。

### ウ 今後の処理体制の要点

循環型社会形成推進地域計画（1 期）に基づきリサイクルセンターの整備が完了したことにより、容器包装リサイクル法に則ったリサイクルの完全実施を行う。

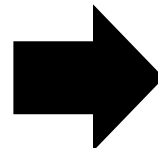
その為に、今まで以上に市民への啓発活動を行い、分別収集の徹底を図る。

また、排出業者や収集運搬業者への指導を強化し、事業系廃棄物の排出を抑制する。

現在の最終処分場が平成 26 年度に埋立を完了する見込みのため、新たな最終処分場を整備し、適切なごみの処理を行う。

表2 鈴鹿市の家庭ごみの分別区分と処理方法の現状と今後

現 状			
分別区分	処理方法	処理施設等	実績 (H20)
もやせるごみ	焼却 リサイクル 発電	清掃センター	32,168
もやせないごみ	埋立 リサイクル	不燃物リサイ クルセンター	2,890
容り法対象プラス チックごみ	リサイクル	不燃物リサイ クルセンター	3,867
粗大ごみ	焼却 埋立 リサイクル	清掃センター 不燃物リサイ クルセンター	539
ペットボトル	リサイクル	不燃物リサイ クルセンター	271
あきびん	リサイクル	委託	717
古紙	リサイクル	売却	4,260
あきかん	リサイクル	売却	257
衣類	リサイクル	委託	296
有害ごみ	その他	委託	57



今 後 (H28年)			
分別区分	処理方法	処理施設等	
		一次処理	二次処理
もやせるごみ	焼却 リサイクル 発電	清掃センター	(焼却灰) 委託
もやせないごみ	埋立 リサイクル	不燃物リサイ クルセンター	売却
容り法対象プラス チックごみ	リサイクル	不燃物リサイ クルセンター	委託
粗大ごみ	焼却 埋立 リサイクル	清掃センター 不燃物リサイ クルセンター	
ペットボトル	リサイクル	不燃物リサイ クルセンター	委託
あきびん	リサイクル	委託	
古紙	リサイクル	売却	
あきかん	リサイクル	売却	
衣類	リサイクル	委託	
有害ごみ	その他	委託	

### (3) 処理施設の整備

#### ア 廃棄物処理施設

上記(2)の分別区分及び処理体制を実施するため、表3のとおり必要な施設整備を行う。

表3 整備する処理施設

事業番号	整備施設種類	事業名	処理能力	設置予定地	事業期間
1	最終処分場	最終処分場建設事業	埋立容量 125,300m <sup>3</sup>	鈴鹿市国分町	H23～H25
2	ごみ焼却施設	鈴鹿市清掃センター 改修対策事業	270t/日 (90t/日×3炉)	鈴鹿市御園町	(H28)～(H32)

(整備理由)

事業番号1 既設施設が、平成26年度中に埋立完了するため。

事業番号2 既存焼却施設の延命化、二酸化炭素排出削減対策の促進。

※ 今回の計画期間外のものについては、事業期間を( )書きとしている。

### (4) 施設整備に係る計画支援事業

(3)の施設整備に先立ち、表4のとおり計画支援事業を行う。

表4 実施する計画支援事業

事業番号	事業名	事業内容	事業期間
31	鈴鹿市清掃センター改修対策事業 に係るアドバイザー業務	事業者選定アドバイザー業務	H26～H27



(4) その他の施策

その他、地域の循環型社会を形成する上で、次の施策を実施していく。

ア 不法投棄対策

鈴鹿市不法投棄対策連絡協議会を中心に啓発活動、パトロールの強化、監視カメラの設置などを行い、不法投棄防止を図る。

イ 災害時の廃棄物処理に関する事項

鈴鹿市地域防災計画には、住民の協力のもと可能な限り現有体制で環境影響上支障のない方法で行うと記載されている。現在、広域的な処理の体制及び手法について、県と連携し、近隣市町村と震災廃棄物処理計画の策定に向けて協議している。

#### 4 計画のフォローアップと事後評価

(1) 計画のフォローアップ

鈴鹿市は、毎年、計画の進捗状況を把握し、その結果を公表するとともに、必要に応じて、国・県と意見交換をしつつ、計画の進捗状況を勘案し、計画の見直しを行う。

(2) 事後評価及び計画の見直し

計画期間終了後、処理状況の把握を行い、その結果が取りまとまった時点で、速やかに、計画の事後評価、目標達成状況の評価を行う。

また、評価の結果を公表するとともに、評価結果を次期計画策定に繁栄させるものとする。

なお、計画の進捗状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じ計画を見直すものとする。

様式1

## 循環型社会形成推進交付金事業実施計画総括表1(平成23年度)

### 1 地域の概要

(1)地域名 鈴鹿市	(2)地域内人口	202,999 人	(3)地域面積	194.67 km <sup>2</sup>
(4)構成市町村等名	(5)地域の要件 <sup>※</sup>	人口 面積 沖縄 離島 奄美 豪雪 山村 半島 過疎 その他		
(6)構成市町村に一部事務組合等が含まれる場合、当該組合の状況	組合を構成する市町村: 設立(予定)年月日: 年 月 日		設立、認可予定 設立されていない場合、今後の見通し:	

※交付要綱で定める交付対象となる要件のうち、該当する項目全てに○を付ける。

### 2 減量化、再生利用の現状と目標

指標・単位	年	過去の状況・現状						目標
		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成28年度
排出量	事業系 総排出量(トン)	17,844	18,424	20,090	19,123	18,748	17,836	15,975 (H20比-10%)
	1事業所当たりの排出量(トン/事業所)	9.07	9.09	9.85	9.22	9.09	9.13	8.81
	家庭系 総排出量(トン)	54,585	54,824	55,213	55,670	55,092	53,223	57,293 (H20比 8%)
	1人当たりの排出量(kg/人)	202.91	202.89	205.95	204.24	204.41	196.33	182.43
	合計 事業系家庭系排出量合計(トン)	72,429	73,248	75,303	74,793	73,840	71,059	73,268 (H20比 3%)
再生利用量	集団回収量(トン)	3,239	3,447	3,213	3,668	3,482	3,466	4,753
	直接資源化量(トン)	9,195 13%	9,054 12%	8,528 11%	8,504 11%	7,690 10%	6,971 10%	8,591 11%
	処理後再生利用量(トン)	8,405 12%	8,348 11%	8,489 11%	8,884 12%	8,597 12%	8,717 12%	12,175 17%
熱回収量	年間の発電電力量(MWh)	6,615	7,683	9,051	8,898	8,841	8,066	7,526
	中間処理による減量化量	減量化量(中間処理前後の差 トン)	47,521 66%	48,950 67%	51,243 68%	50,400 67%	50,704 69%	48,722 69%
最終処分量	埋立最終処分量(トン)	7,308 10%	6,896 9%	7,043 9%	7,005 9%	6,849 9%	6,649 9%	4,071 6%

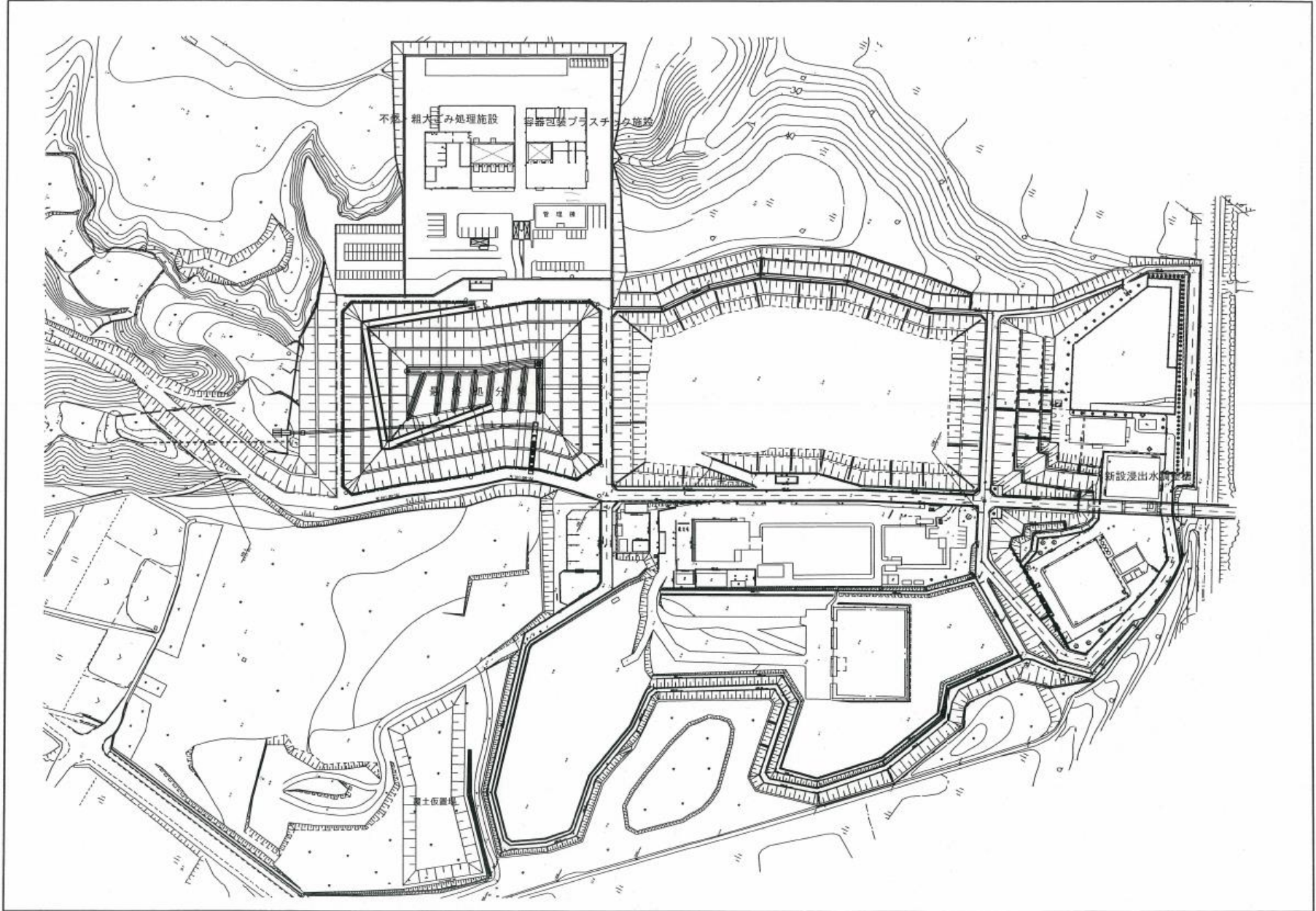
※別添資料として指標と人口の要因に関するトレンドグラフを添付した。(P18を参照)

3 現有施設の状況と更新、廃止、新設の予定

施設種別	実施主体	現有施設の内容				更新、廃止、新設の内容					備考
		型式及び処理方式	補助の有無	処理能力(単位)	開始年月	更新、廃止予定年月	更新、廃止理由	型式及び処理能力	施設竣工予定年月	処理能力(単位)	
最終処分場	鈴鹿市(PFI事業者/鈴鹿エコセンター(株))	接触酸化方式	有	埋立面積	H5.4	H26.3	埋立完了	埋立処分地	H26.4	埋立面積	
				48,000㎡						15,600㎡	
				埋立容積						埋立容積	
				335,900㎡						125300㎡	
マテリアル推進施設(容器包装リサイクル推進施設)	鈴鹿市(PFI事業者/鈴鹿エコセンター(株))	圧縮・梱包処理	有	22t/日	H22.4	—	—	—	—	—	
マテリアル推進施設(リサイクルセンター)	鈴鹿市(PFI事業者/鈴鹿エコセンター(株))	破碎・選別処理	有	48t/日	H23.4	—	—	—	—	—	
鈴鹿市清掃センター	鈴鹿市	連続燃焼式ストーカ炉	有	270t/日	H14.8	H33.3	施設の延命化 CO2排出削減対策	連続燃焼式ストーカ炉	H33.3	270t/日	

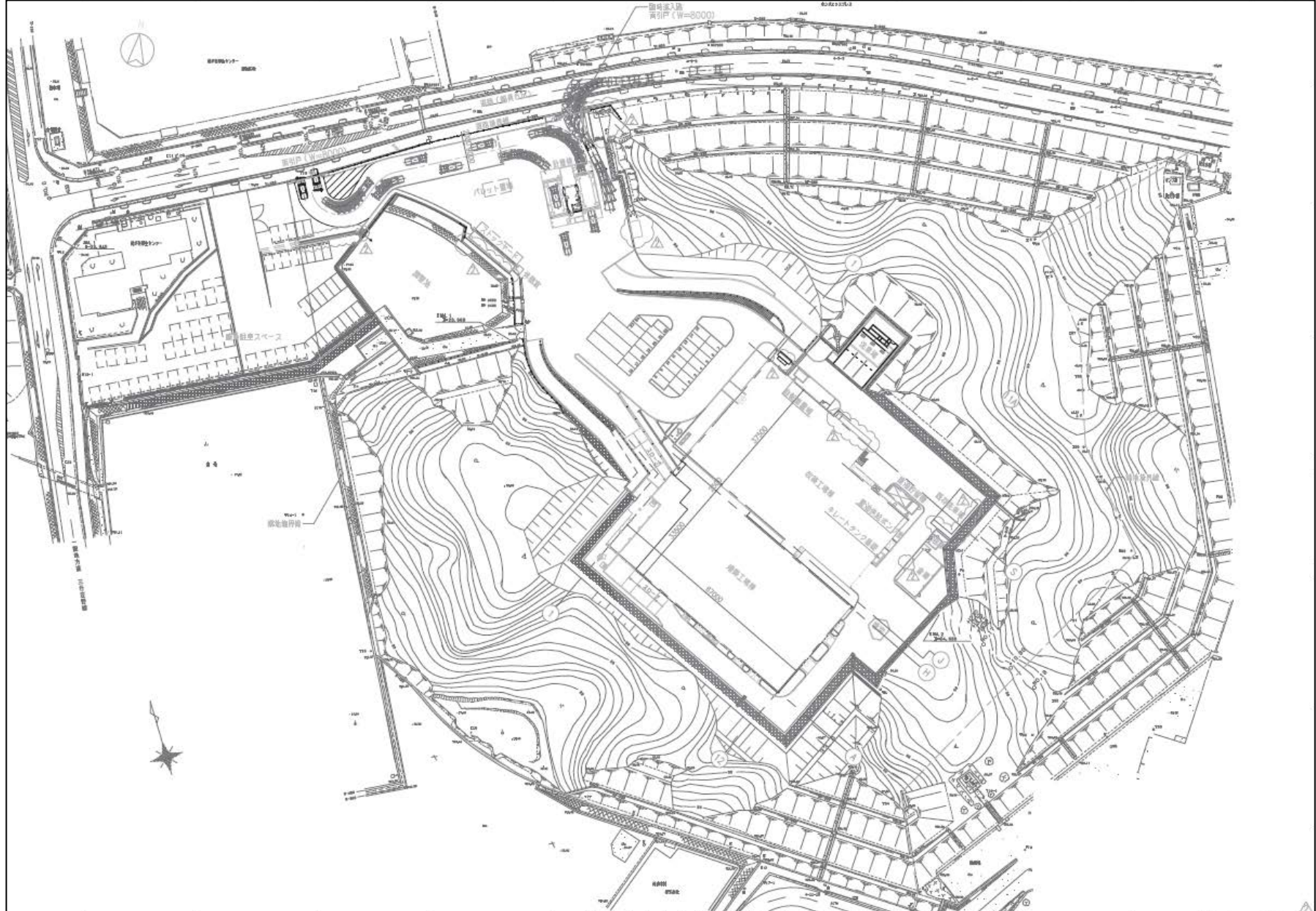
※計画地域内の施設の状況(現地、予定)を地図上に示したものを添付した。

【リサイクルセンター】 位置図 (縮尺1/2,000)





【鈴鹿市清掃センター】 位置図 (縮尺 1/500)



循環型社会形成推進交付金事業実施計画総括表2(平成23年度)

事業種別 事業名称	事業 番号	事業主体 名称	規模		事業期間 交付期間		総事業費(千円)					交付対象事業費(千円)					備考		
			単位		開始	終了	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度			
<b>○最終処分に関する事業</b>																			
最終処分場建設事業	1	鈴鹿市 (PFI事業者/鈴鹿エ コセンター(株))	125,300	m <sup>3</sup>	H23	H25	1,062,385	66,932	368,907	626,546	—	—	344,453	38,903	189,000	116,550	—	—	
<b>○廃棄物処理施設の基幹的設備改良事業</b>																			
鈴鹿市清掃センター改修対策事業	2	鈴鹿市	270	t/日	(H28)	(H32)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平成28年 度以降は 次期計画 で実施
<b>○施設整備に関する計画支援事業</b>																			
鈴鹿市清掃センター改修対策事業に係る アドバイザー業務	31	鈴鹿市			H26	H27	23,178	—	—	—	4,160	19,018	23,178	—	—	—	4,160	19,018	
<b>合 計</b>							1,085,563	66,932	368,907	626,546	4,160	19,018	367,631	38,903	189,000	116,550	4,160	19,018	

※今回の計画期間外のものについては、事業期間を( )書きとしている。

地域の循環型社会形成推進のための施策一覧

施策種別	施策番号	施策の名称等	施策の概要	実施主体	事業期間		交付金 必要の 要否	事業計画					備考	
					開始	終了		平成	平成	平成	平成	平成		
								23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	家庭ごみ収集の有料化検討	市民の意識調査及び導入検討	鈴鹿市	H17			調査・検討						
	12	粗大ごみ戸別有料収集業務	ステーション収集から戸別有料収集に変更することにより、ごみ減量及び資源化の推進を図る。	〃	H9			戸別収集の実施						
	13	ごみ分別等啓発	ごみの分け方・出し方等の周知・徹底を図る。	〃	H5頃			啓発冊子の配布						
	14	廃棄物減量等推進員設置	分別の徹底及び一般廃棄物の減量化を目的として設置。原則、1自治会1名で任期は2年	〃	H9			推進員の設置						
	15	リサイクルフェア	粗大ごみとして回収された使用可能なものを、希望者に無料で提供する。	〃	S60			リサイクルフェアの実施						
	16	リサイクルくるくる市場	本市のHP上に電子掲示板を作成し、リサイクル情報の共有化を図る。	〃	H10			情報の共有化						
	17	おもちゃ病院「トイなおす」の支援	おもちゃ修理を通してリサイクル及びモノを大切にすることを育んでいる団体への活動支援	〃	H15			活動支援						
	18	資源ごみ回収奨励	資源ごみ回収活動を実施する団体に対し、奨励金を交付する。	〃	H3			奨励金の交付						
	19	生ごみ処理容器購入費助成金事業	各家庭から排出される生ごみの排出抑制、リサイクルを目的として購入者に対して助成金を交付	〃	H4			助成金の交付						
	20	あき缶ポスト	市内小・中学校等84箇所に空き缶回収ボックスを設置し、回収量に応じた図書券を交付することで設置施設利用者に還元する。	〃	H5			図書券の交付						
	21	出張ごみ博士(市内の小中学校)	市内の小中学校へ職員が出張し、「バツカー車の説明」「ごみの現状」「ごみ処理の将来」など、体験談などを交えた授業を行う。	〃	H16			授業の実施						
	22	鈴鹿市のごみ減量を考えるポスターコンクール	市内の小中学生より募集し、優秀作品について展示・表彰を行う。優秀作品は、次年度の啓発冊子に掲載している。	〃	H5			コンクールの開催						
	23	ごみ減量推進店等認定	市・消費者・販売店・事業所・市民グループが一体となって発生抑制及び減量を図る。	〃	H13			認定及び表彰						
処理体制の構築、変更に関するもの	21	一般廃棄物処理 基本計画策定	一般廃棄物の発生量及び処理量の将来見込み、ごみの減量化資源化にむけた各種施策を示す。	鈴鹿市	H25	H25							計画	
	22	容り法 その他プラ収集	分別区分の変更に伴う、市民へ周知徹底を図る。	〃	H21			周知						
処理施設の整備に関するもの	1	最終処分場		鈴鹿市	H23	H25	○	建設工事						
	2	鈴鹿市清掃センター改修対策事業	既存焼却施設の延命化、二酸化炭素排出削減対策の促進。	〃	(H28)	(H32)	○							
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	2の計画支援	事業者選定アドバイザー業務。	鈴鹿市	H26	H27	○						アドバイザー業務	
その他	51	まちかど美化推進	パトロールやごみの早期徹底を実施し、ごみを捨てられにくい環境をつくり、不法投棄を減少させる。	鈴鹿市	H14			パトロール等						
	52	災害時対策	処理体制の確保を図るため災害廃棄物処理対策マニュアルの作成	〃	H20			災害時への対策						

※今回の計画期間外のものについては、事業期間を( )書きとしている。

## 施設概要(最終処分場系)

都道府県名 三 重 県

(1) 事業主体名	鈴鹿市(PFI事業者/鈴鹿エコセンター(株))		
(2) 施設名称	鈴鹿市不燃物リサイクルセンター(一般廃棄物最終処分場)		
(3) 工期	平成23年度 ~ 平成25年度		
(4) 処分場面積, 容積	総面積 23,040 m <sup>2</sup>	埋立面積 15,600 m <sup>2</sup>	埋立容積 125,300 m <sup>3</sup>
(5) 処分開始年度 及び終了年度	埋立開始 平成 26 年度 埋立終了 平成 40 年度		
(6) 跡地利用計画	工業団地・公共施設用地等として整備		
(7) 地域計画内の役割	資源化されなかったごみについて, 最終処分として埋め立てる。		
(8) 廃焼却施設解体工事 の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>		
(9) 事業計画額	1,062,385 千円		



## 施設概要(ごみ焼却施設)

都道府県名 三重県

(1)事業主体名	鈴鹿市
(2)施設名称	鈴鹿市清掃センター
(3)工期	平成28年度 ~ 平成32年度
(4)施設規模	処理能力 270t/日(90t/日×3炉)
(5)形式及び処分方法	連続燃焼式ストーカ式
(6)余熱利用の計画	1. 発電の有無 <input checked="" type="radio"/> (発電効率 %)・無 2. 熱回収の有無 <input checked="" type="radio"/> (熱回収率 %)・無
(7)地域計画内の役割	もやせるごみの中間処理として焼却を行うとともに、発電等による余熱利用を行う。
(8)廃焼却施設解体工事の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

「灰溶融施設」を整備する場合

(9) スラグの利用計画	
--------------	--

「高効率原熱料回収施設」を整備する場合

(10)発生ガス回収効率及び発生ガス量	1. 発生ガス回収効率 $\text{Nm}^3/\text{t}$ 2. 発生ガス量 $\text{Nm}^3/\text{日}$
(11)回収ガスの利用計画	

(9)事業計画額	千円
----------	----

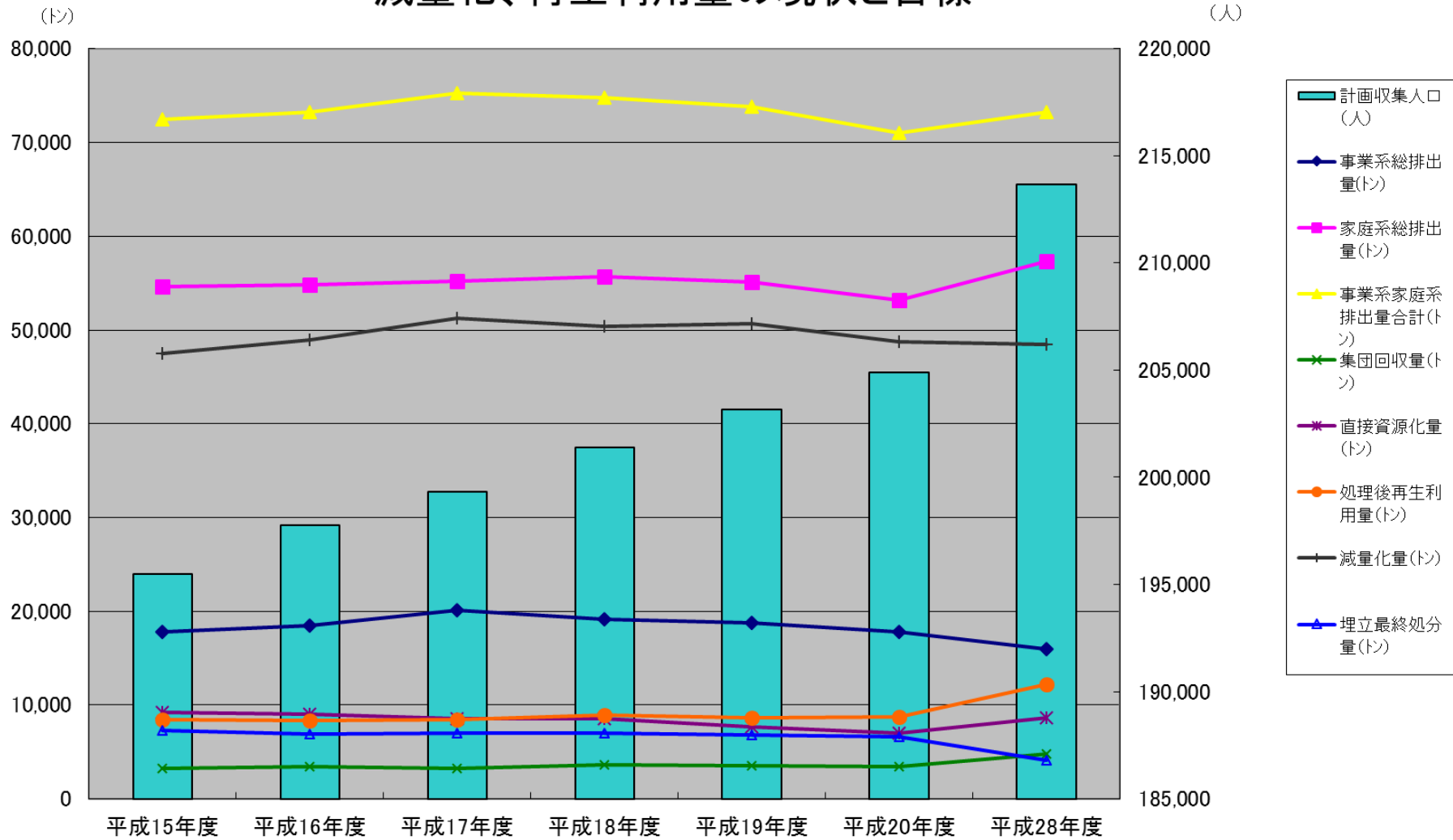
※ 上記施設は当期間内において交付対象外である。

## 計画支援概要

都道府県名 三 重 県

(1) 事業主体名	鈴鹿市
(2) 事業目的	基幹的設備改良事業に関する計画支援
(3) 事業名称	鈴鹿市清掃センター改修対策事業に係るアドバイザー業務
(4) 事業期間	平成26年度 ~ 平成27年度
(5) 事業概要	事業者選定アドバイザー業務
(6) 事業計画費	23,179 千円

# 減量化、再生利用量の現状と目標



## 施設の概要（平成23年度現在）

名称：鈴鹿市不燃物リサイクルセンター

所在地：鈴鹿市国分町1700番地

### 不燃・粗大ごみ処理棟

構造	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造地上3階建		
延床面積	3469.73㎡		
処理能力	不燃・粗大ごみ	75t/5時間・日	
	有害ごみ	2t/5時間・日	
	PETボトル	2t	

### 容器包装プラスチック処理棟

構造	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造地上3階建		
延床面積	3760.62㎡		
処理能力	プラスチックごみ	22t/5時間・日	

### 最終処分地

埋立面積	48,000㎡
埋立容積	335,900㎥

名称：鈴鹿市清掃センター

所在地：鈴鹿市御薊町3688番地

構造	鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造 地上4階 地下1階		
延床面積	11,263.61㎡		
処理能力	可燃ごみ	270t/日	